

京林大だより

No.35



絵：卒業生 熊走君

第2回林大祭を開催しました

12月3日(日曜日)、昨年度は手探りの状態で始めました林大祭ですが、今回は「木と炎の暖かな世界」をテーマに開催しました。

模擬店や木工体験と林大生手作りの木工品販売、チェーンソーアートの実演、森のアクション、映画鑑賞会などの盛りだくさんな内容で楽しんでいただきました。

当日は好天にも恵まれ、約240名の多くの来場者で賑わいました。

〈ブース・模擬店に参加いただいた陽気ハッスルランド、まどい、ゆうまりCAFE、樹々の会、森の力京都（順不同、敬称略）ご協力ありがとうございました。〉



つきたてのお餅を先着順に振る舞い



林大特製鹿肉カレーも早々に売り切れ！



火の周りにはたくさんの人が集まりました。



チェーンソーアートの実演に見入る来場者



ペレット窯で焼いたピザは売り切れ御免



大盛況のリース作り



地元産品売り場も賑わいました



作ったリースと木工品でにっこり



手作りフィールドアスレチックも

林政ニュース

『新たな森林管理について』

国は、林業の成長産業化と森林資源の適切な管理の両立を図るためとして、市町村の役割を大幅に強化する「新たな森林管理システム」を平成31年度から導入しようとしています。

具体的には、所有者がわからない森林や、自ら管理する意欲のない森林所有者の森林を、意欲と能力のある林業経営者に市町村が仲立ちをして管理をまかせたり、市町村自らが管理することを目指しています。

そして、このような森林に対して、集中的に路網整備を推進したり、高性能林業機械の導入を図ることを考えています。

また、このシステムを運営するために必要な費用を確保するため、森林環境税を創設しようとしています。

これから来年度の国の予算審議が始まりますが、森林環境税がどのように議論されるのか、森林関係者にも目が離せない国会になりそうです。

また、来年度形が明らかになってくる「新たな森林管理システム」がどのようなものになるのか注目していきたいと思いません。

今月の授業参観

『高性能林業機械操作士総合実習』

2年生の林業専攻が対象の高性能林業機械操作の集大成とも言える授業です。授業終盤には京都府の独自の資格である「高性能林業機械操作士」の認定試験が含まれています。

ハーベスタやスイングヤード等の高性能林業機械の操作練習や、チェーンソーによる倒す方向を意識した伐倒技術を身につけるよう練習します。

キャブストーン研修（インターンシップ）で操作した学生も多く、どうしたら効率良く運べるか等、次の作業を意識して操作している様子でした。



伐根の確認

ハーベスタによる造材作業



校長室より

京丹波須知高校70周年

校長 只木 良也

京都林大と同じ京丹波町にある須知高等学校。12月に創立70周年記念の式典があり、出席してきました。

ところで、創立70年は、戦後の新制高校としてのもの。本校の創立は、実は明治9年、140年前の京都府農牧学校に遡ります。

それは、札幌（北大）、駒場（東大）とともに3大農業教育発祥の地として知られています。

その後、船井郡立実業学校、京都府立須知農学校、京都府立須知農林学校（昭和7～23年）と変遷し、京都府立須知高等学校（昭和23年～現在）、創立70周年に至ったのでした。

学校の様々を記した70周年記念印刷物の書名は、「聴け高原に鐘は響く（=校歌冒頭の句）」、この本には日本屈指の敷地を誇る須知高校、とあります。

ところで実は私、太平洋戦争末期の昭和20年に、須知農林学校時代の当校に世話になったことがあるのです。戦時中に京都に出来た科学教育のための特別学級の小学校〔当時は国民学校〕の部の4-6年生3学年生約60名が須知農林の構内に学童集団疎開したのですが、私はその6年生の一員でした。

この話題、当欄で一度扱いました（→京林大だより21号。2015年9月）が、構内の養蚕室を転用した住居と教室、ご近所の方々が、皆の目の前でブタ1頭潰して、ご馳走してくれたことなど、思い出は沢山あります。

そんな私が今、同じ町に新設の林大校長。何かの因縁を感じるのです。歴史の古い大先輩校を見習い、京都林大大成を目指して努力するのが私の勤めだと思っています。